

平成 22 年 10 月 22 日

各 位

東京都文京区白山五丁目 1 番 3 号

株式会社ビーマップ

代表取締役社長 浅賀 英雄

(大証 JASDAQ : 4316)

問合せ先：経営管理部長 大谷 英也

(電話 03-5842-5033)

特別損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

昨今の業績動向を踏まえ、平成22年5月13日に発表いたしました平成23年3月期第2四半期累計期間の連結・個別業績予想並びに平成23年3月期通期の連結・個別業績予想を下記のとおり修正いたします。

また、下記のとおり特別損失の計上を行うことといたしましたので、その概要をお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想数値の修正

(1) 平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績予想修正 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	373	△19	△19	△19	△591 円 91 銭
今回修正予想 (B)	331	△55	△64	△67	△2,087 円 29 銭
増減額 (B - A)	△42	△36	△45	△48	—
増減率 (%)	△11.2	—	—	—	—
(ご参考) 前中間期 (平成 21 年 9 月期) 実績	330	△109	△108	△119	△3,722 円 07 銭

(2) 平成 23 年 3 月期通期連結業績予想修正 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1株当たり 純利益
前回発表予想 (A)	870	10	10	10	311 円 53 銭
今回修正予想 (B)	850	3	3	△10	△311 円 53 銭
増減額 (B - A)	△20	△7	△7	△20	—
増減率 (%)	△2.2	—	—	—	—
(ご参考) 前期 (平成 22 年 3 月期) 実績	911	△51	△59	△55	△1,729 円 27 銭

2. 個別業績予想数値の修正

(1) 平成23年3月期第2四半期累計期間の個別業績予想修正(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	373	△19	△19	△19	△591円91銭
今回修正予想(B)	331	△56	△54	△81	△2,523円44銭
増減額(B-A)	△42	△37	△35	△62	—
増減率(%)	△11.2	—	—	—	—
(ご参考) 前中間期(平成21年9月期)実績	265	△81	△80	△102	△3,188円13銭

(2) 平成23年3月期通期個別業績予想修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1株当たり 純利益
前回発表予想(A)	870	10	10	10	311円53銭
今回修正予想(B)	850	3	3	△20	△623円07銭
増減額(B-A)	△20	△7	△7	△30	—
増減率(%)	△2.2	—	—	—	—
(ご参考) 前期(平成22年3月期)実績	835	△24	△23	△45	△1,416円96銭

3. 修正の理由

第2四半期累計期間までの業績動向と今後の見込等を踏まえ、第2四半期累計期間および通期の業績予想を修正いたします。

(1) 第2四半期累計期間の概況について

当期においては、重要な経営課題として、受注(売上)拡大に取り組んでまいりましたが、第2四半期累計期間においては計画を42百万円下回る結果となりました。

ナビゲーション事業分野においては、ほぼ計画通り推移いたしました。鉄道関連やびあは一関連をはじめとする受注・売上は予定通りでしたが、道路ナビ関連において予定していた売上・利益には届かず、事業分野としては予定を若干下回りました。モニタリング事業分野につきましては、ほぼ予定どおり推移いたしました。第1四半期においては当初予定以上の納品が進みましたが、8月以降やや低下し、結果として上期全体においては予定通りとなりました。クロスメディア事業分野においては、予定を下回りました。特にTVメタデータ関係のメディア向け展開、Yahoo!JAPAN向け展開が当初スケジュールより遅延したため、売上高・売上総利益の伸びが予定より下回り、結果として全社成績の下振れ要因となりました。

なお、下記4のとおり、個別において特別損失24百万円を計上いたします。

また、前期に主要連結子会社2社を売却したことにより連結規模が縮小している中で、対前年同期比におきましては、連結売上高・営業損益・経常損益・純損益とも若干改善しております。

(2) 通期の見込等について

第2四半期累計期間において計画未達があり、厳しい状況にあると認識しておりますが、営業利益を確保すべく下期を通じて取り組んでまいります。

①ナビゲーション事業分野

鉄道関連は引き続き着実に進捗すると見込んでおります。道路ナビ関連において、未受注の大型案件を複数残しており、営業体制・活動を強化しております。びあは一関連において、株式会社デンソーコミュニケーションズとの連携により積極的に展開を図る観点から、第3四半期において技術面の

強化を行う予定であり、第4四半期以降の収益化を予定しております。

②モニタリング事業分野

大手飲食店チェーン向けの展開を強化するため、11月より新商品の投入を予定しており、事業拡大への貢献を期待しております。また、駐車場向けの販売・導入を強化する予定です。

③クロスメディア事業分野

特にTVメタデータ関係のメディア向け展開、Yahoo!JAPAN 向け展開の高収益化に注力する予定です。また、その他の大手企業との連携ビジネスを企画・調整中であり、一刻も早い実現化と収益化を図ります。

4. 特別損失の概要

持分法適用関連会社である株式会社エム・データについては、上記の通りTVメタデータの速報配信事業など先行投資に見合う収益を上げるに至っていないため、9月末における財務・営業状況を考慮し、個別において株式評価損による特別損失24百万円を計上いたします。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいております。

(注) 第2四半期決算短信の発表は、11月2日を予定しております。

以 上